

From the President's Office

—学長室だより—



<No. 5>

2008. 2. 7

### 専門職大学院と教職課程の開設

文部科学省に設置認可を申請していた専門職大学院「グローバル・コミュニケーション実践研究科」と英語教員養成のための教職課程が、去る12月3日と12月25日にそれぞれ認可されました。専門職大学院は、内容・形態ともに、わが国で初めてのグローバル・スタンダードのユニークな大学院です。学部の教職課程と大学院の「英語教育実践領域」を両立させれば、英語教員専修免許状の取得も可能です。専門職大学院については、本学のホームページのみならず、『秋田魁新報』2月2日付け朝刊、『読売新聞』（全国版）2月5日付け朝刊に広告を掲載してありますので（学内にもコピーを掲示）、見てみてください。すでに出願期間中（2月1日～14日）ですが、本学在学学生からの多数の応募を期待しています。

### 図書館・情報センターの竣工

懸案の図書館棟（図書館および情報センター）と渡り廊下がこの3月中旬に竣工します。本学にとっては宿泊棟のグローバル・ヴィレッジに次ぐ新建設施設ですが、県財政逼迫の折柄、本学としては満足のいく、秋田杉とガラスの壁面を多用した巨大な木造天井の施設ですので、是非期待してください。引き続き新しい講義棟の建設が始まります。

### 教育再生会議

安倍政権下の昨年10月、閣議決定によって発足し、昨年10月に福田内閣に引き継がれた教育再生会議は、去る1月31日に最終報告を福田首相に提出して当面の任務を完了しました。すでに第一次から第三次までの詳細な報告を終えている同会議としては、今回改めて、「『知』の大競争がグローバルに進む時代にあって、今、直ちに教育を抜本的に改革しなければ、日本はこの厳しい国際競争から取り残される恐れがあります」と強調しています。私自身同会議の有識者委員および運営委員として積極的に参加してきましたが、徳育の教科化、幼児教育の重視、英語教育の抜本的改革などに努めました。とくに大学・大学院の改革に関しては、大学の「教育の質」の向上、卒業認定の厳格化、教養養育の重視、学長のリーダーシップによる「学部の壁」の打破、教員の国際公募、英語による授業の増加など、教育再生会議一行が視察（2007年12月19日）された本学が改革のモデルになっていることを改めて痛感し、重い責任を感じています。

## 初めての卒業生へのメッセージ

来る3月21日には本学の第一回卒業式が、教授会による卒業認定を経て、同日午後一時半から秋田市内のアトリオン音楽ホールで挙行されます。第一回卒業予定者の就職・進学の様子がきわめて順調であることに、学長として大変嬉しく思っています。皆さん、本当によく頑張ってくれましたね。

ところで、「留学の手引」にもありますように、グローバルな世界で活躍する諸君の将来の糧として、学長推薦の図書を選び、その感想文を留学報告書とともに提出するよう事前に要請しましたが、まだ提出していない卒業予定者が多くおります。これは学長と学生諸君との信頼関係に基づく道義的な約束事ですので、まだ提出していない方は、教育研究会議による卒業判定の前日である3月11日（火）までに、事務局（教学課提携・留学支援チーム）へ提出してください。

学長 / 理事長 中嶋 嶺雄

